アルツゥロが行ってしまうとペペとスシは、人々の中から興味のある知り合いを探し始めた。
—ボス、誰ですか、白い衣装の人は？
—見て、あの人は私達が探している人達の一人だよ。君それとわかるだろう“Hola”を沢山読んでいるだろう？カサロジャの侯爵だよ。
—写真より老けていますね、私は何をすべきでしょうか、ボス？
—彼と話を進めたまえ。
—分かりました。
スシはペペの側を離れて、侯爵の傍にあるカナッペのトレーに近づいた。侯爵はすぐに微笑みながら彼女に話しかけた。別荘の正面の扉の側に女性のグループと話している有名なテニスの選手サンタエウラリアがいた。グループから少し離れたにはローラ セプルベダ、前のミス スペインがいた。ペペが常に満足している人だ。“これは私にとってチャンスだ”と大変楽天的なペペは考えた。彼女もまたヘススのインタビューを受けたのだろうと考え元気づいた。
—どうして貴女はお一人でこのパーティーにいらしたのですか？
ペペは自分自身を驚かせる程の流暢さで話し掛けた。
—いいえ、一人ではありません。まだ到着していません、知っている人が、その人を待っているのです。
“それはそうだろう”とペペは考えた、然し決心して続けた。
—もしよろしければ、ご一緒に何か飲みながら彼女を待ちませんか。
—そうしましょう、ヘレスとカナッペを一つ頼みます。然しキャビアで無いようなものです。私はキャビアが嫌いなのです。
“美人だ、しかし愚かなそして権威高い”とペペは考えた。間もなくヘレスと何かをローラのために探ことを決めた。